

# 国際社会起業ビジネスプラン・コンペティション報告書

開催日：2011年11月5日

場所：東京工業大学蔵前会館 ロイヤルブルーホール

国際社会起業サポートセンター（ICSE）主催

協賛：NEC、(株)国際開発アソシエイツ

後援：日本フィランソロピー協会

1. 事業の目的
2. 事業実施までの経緯
3. 事業の概要
4. 事業の結果

2011年11月

国際社会起業サポートセンター  
(ICSE : International Center for Social Entrepreneurs)

## 1. 事業の目的

本事業は、特定非営利法人「国際社会起業サポートセンター」（以下 ICSE と呼ぶ）の定款の目的達成のために行う。定款に定めた目的は以下の通りである。

*「国籍を問わず、世界の貧困、失業、環境破壊などの様々な社会的問題に対して、革新的なアイデアに基づいて、持続可能な新しいシステムを作り、問題解決に取り組む社会起業家の養成を目的とする。また、社会起業家の実現する社会変革によって、これらの社会的問題が解決され、より良い社会の構築に寄与することを目的とする。」*

社会的問題に対して、革新的アイデアに基づき、新しい社会的な仕組み構築していくことを「社会イノベーション」と呼び、近年、国際的に多様な活動が大きな潮流となってきた。日本においても、社会起業家、社会イノベーションについての認識が高まりつつある。ただし、国内における社会起業家、社会イノベーションに関する議論が主流であり、日本が国際的社会問題に取り組む活動は活発とは言えない。

社会起業家の活動への本格的支援は、“Innovators for the Public”として30年前に活動を始めた Ashoka の創設者である Bill Drayton である。彼の活動はインドから始められた。成熟国に比べ、発展途上国における社会問題は、貧困を始めとして環境、人権など極めてシビアなものであり、如何にこれら国際的課題への貢献をするかが問われている。

Ashoka が支援してきた社会起業家の多くは成熟国での高等教育を受け、自国の問題を客観的に捉え、新しいアイデアで解決に取り組んできている。

ICSE は、主に日本の留学生がコアになり、日本からの支援により国際的社会問題への挑戦を活発化することを中心事業コンセプトとして設立された。定款において、*<国籍を問わず>*としているのは、日本人あるいは成熟国からの留学生が、発展途上国で事業展開する事例も出始めていること、日本人が日本を拠点としつつも、発展途上国の活動家との連携で挑戦するケースも想定されるためである。

国際社会起業ビジネスプラン・コンペティションは、第1回目を昨年2010年10月16日に開催され、今回は第2回目として2011年11月5日に開催された。留学生・日本人などからの優れたアイデアを募集するものであるが、ICSE の活動としては、これは出発点であり、その後のアイデアの実現に向けたフォローアップが重要となる。

優れたアイデアも実際に実現して初めて意義あることになる。ICSE のコンペティションの応募することが実現への現実的ステップであると社会起業家が認め、ICSE の推奨するアイデアが支援するのに相応しいものであると事業協力者が認めるような組織構築を目指す。企業にとっても、Bottom of Pyramid(BoP)ビジネスと言われる、CSR の観点のみならず、発展途上国で事業展開する上での重要な初期ステージを提供し得る側面もあり、企業からの支援を重要なものと考えている。

## 2. 事業実施までの経緯

ICSE の事業は、東京工業大学で行われた事業の拡大発展版である。

東京工業大学大学院社会理工学研究科の社会工学専攻「国際的社会起業家養成プログラム」の一環で、2007～2009 年度の 3 ヶ年に亘り、主に留学生を対象とした社会起業ビジネスプラン作成演習およびコンペティションを実施し、多様なアイデアが生まれ、実際に実現可能なプランも見られた。

この留学生を対象としたビジネスプラン作成は、「国際的社会起業家養成プログラム」事業は、文部科学省の「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に採択された「実践・理論融合の国際的社会起業家養成」の事業の一部である。この事業では、社会起業家を招聘しての公開講座、BRAC の代表 (Fazle Hasan Abed 氏) や Ashoka (Innovators for the Public) の代表 (Bill Drayton 氏) を招聘してのシンポジウム、社会工学専攻の学生の海外 NPO・NGO でのインターンシップなど、総合的に社会起業家養成を意図したものである。事業概要は下記 URL に示してある。

<http://www.soc.titech.ac.jp/~soc-entre/index.html>

この文部科学省の事業は 2010 年 3 月に終了したため、この事業を継続するためには、新しい枠組みが求められた。

そこで、留学生への社会起業ビジネスプラン・コンペティションの継続を意図して、新たに特定非営利活動法人 (NPO 法人) として「国際社会起業サポートセンター (ICSE)」を 2009 年 4 月 10 日に設立し、同事業を東京工業大学に限定せずに広く留学生に声をかけ、コンペティションを実施することにした。また、ビジネスプランを作成することに止まらず、実際に実現するための支援も事業に含めることになった。

ICSE の役員および会員は、ベンチャー企業に対する金融的支援に関する豊富な実務経験者、国際協力分野における実務・研究教育経験者、投資ファンドの代表者、経営コンサルタントを始め、社会的起業に関心をもつ多彩な人材であり、役員は下記のようなメンバー構成となっている。

理事長	渡邊 孝	(芝浦工業大学工学マネジメント研究科 元銀行勤務)
常務理事	井上 和雄	(元ユニセフ)
理事	阿部 直也	(東京工業大学国際開発工学専攻)
理事	百合本 安彦	(グローバルブレイン (株) ベンチャーキャピタル)
理事	松下 博宣	(東京農工大学技術経営研究科 コンサルタント)
監事	杉浦 和彦	(テレ・プランニング・インターナショナル (株))

### 3. 事業の概要

首都圏の留学生中心に呼びかけ、社会起業ビジネスプランの募集を行い、優秀なプランには賞金を出す。近年、日本ができなくても履修可能な国際コースが多くの大学に導入され、日本語に不慣れな留学生も多く、英語が基本となっていることから、この事業は英語を共通言語として進めた。

#### 1. オリエンテーション

首都圏の留学生およびその関係者などに呼びかけ、コンペティションの趣旨を広報し、8月5日(金)の夕刻に目黒線大岡山駅前の東京工業大学蔵前会館「ロイヤルブルーホール」において、オリエンテーションを行った。当日のプログラムは下記の通りである。

18:30	挨拶 渡辺孝 ICSE 理事長
18:45	キーノートスピーチ (英語) 森本晴久 アストリア・コンサルティング・グループ “社会的事業を成功させる方法”
19:30	2010 年度事例 Mr. Nhat VUONG (Switzerland) “i-kifu Donation Website” Mr. Workineh Sisay Ayichew (Ethiopia) “Agriculture, machinery implementation”
20:10	コンテスト実施手順 井上和雄 ICSE 事務局長
20:30	挨拶 阿部直也 東京工業大学准教授

森本氏の講演は、ビジネスプラン作成の要点を解説するとともに、パワーポイントによるビジネスプランテンプレートを提供するものである。

また事例紹介は、昨年の受賞者3名のうちの2名からのプラン発表である。スイスからの Nhat さんのプランはインターネットから手軽に寄付のできるサイト構築であり、現在精力的に事業開始準備を進めている。また、エチオピアからの Sisay さんのプランは、人力と家畜による農作業の機械化による農業の生産性向上であり、大学卒業後に現地で起業することを意図している。

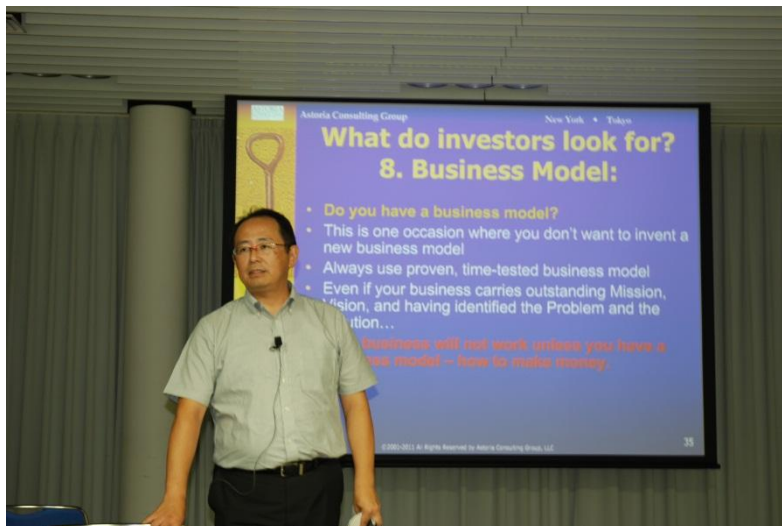
優れたプランには、各10万円のICSE賞、NEC賞、IDeA賞が、昨年同様に贈呈される。

ICSE賞は、ICSE会員が寄付して賄っている。

NEC(日本電気株式会社)からは、この賞の他、参加賞などの経費を含め20万円の寄付を受けた。IDeA賞は、株式会社国際開発アソシエイツからの提供である。更に、今年

は、日本フィランソロピー協会の後援を受け、企業の CSR 部門との連携強化を推進することへの道が開けた。

下記はオリエンテーションの様相である。



<森本氏がビジネスプラン構築の講義>

## 2. ビジネスプラン策定相談クリニック

オリエンテーションにて、プラン提出を考えている留学生で、希望する留学生にはビジネスプラン作成のコーチングをすることとし、9月10日(土)と9月17日(土)に相談会(クリニック)を行った。

## 3. エントリー～発表候補者選定まで

国籍、プラン概要などを記入したエントリーシートを10月10日(月)を申込期限とし、提出して頂いた。17件のエントリーがあった。

ICSE 事務局から参加予定者には留意事項などを確認し、10月24日(月)を期限とし、パワーポイントによるプランの提出を求めた。2件は最終的にはプラン提出がなく、15件のプランについて、ICSE メンバーが集まり、受賞候補となる Finalist8 候補の選定を行った。選定にあつたての評価基準は階の下記の通りである。

- \* アイディアのオリジナリティ
- \* 実現可能性 (フィージビリティ)
- \* 社会的インパクトの大きさ
- \* コミットメント (プラン作成だけでなく、近い将来実際に事業着手する意向の強さ)

評価者が各プランに関し各表か項目毎に10点満点の評価を行い、選定した。

10月29日に Finalist8 名に通知するとともに、候補から漏れたプラン提出者には、受賞候補ではないが、会場からの意見を求めたいプラン作成者は希望に応じ、発表する機会を提供することとした。

#### 4. コンペティション

2011年11月5日(土)13:30~18:30

目黒線大岡山前の東京工業大学蔵前会館ロイヤルブルーホールにて開催

Finalist 8プランの概要は下記の通りである。

No.	氏名 (国籍)	業種	ビジネスプランの概要
1	Dinush Wimalachandra (Sri Lanka)	Manufacturing, Textile	スリランカの長期の内戦による犠牲者に対し、教育訓練を通して アパレル産業の仕事を提供し、貧困からの脱出をサポートする。
2	Wang Bao Sheng (China)	IT, sales	山岳地帯などにおける中国伝統工芸の維持発展のために、品質 の保証された製品のインターネット販売を事業化する。
3	Anita Odchimar II, Batari Saraswati, Alvin Christopher Galang Varquez (Philippines, Indonesia)	IT literacy learning	日本在住のフィリピン・インドネシアの家族にインターネットなどパ ソコンスキルを12週間で教育し、その収益で母国の家族に現地 でパソコンスキルを教育する。相互の情報交流を可能とし、母国 のビジネス展開を促進させる。
4	Junichirou Ishio (Japan)	Food processing and sales	日本在住のイスラム社会に認証を受けたHalal食材(イスラム法典 準拠)をインターネットなどで販売することにより、日本人とイスラ ム社会との連携を強化する。
5	William Hong (Philippines)	Fishery	離島無電源地域での夜間の漁に使用するランプを、太陽電池と LED照明を使い効率的に漁をすることができるようにするととも に、家庭内の明かりも提供する。
6	Mary Jane Alcedo (Philippines)	Agriculture, food	フィリピンの農村で高品質なヤギを効率的に生産し、食肉・乳の 新規の流通網を構築し、所得向上を図る。
7	Hatma Suryotrisongko (Indonesia)	Agri	津波で被害を受けた地域などでナマズの養殖を行うとともに、お 土産用加工品を開発し、失業や貧困への対応を推進する。
8	Mr. Shigeki Shirokura (Japan)	IT, Research	スマートフォン等活用し、外国留学生の母国ネットワークを有効に 活かしたマーケットリサーチ受託事業で、留学生のアルバイト機 会を増やして、日本での生活をサポートする。



<プレゼン風景(中国の伝統工芸品販売)>

候補者各自のプレゼンテーションは、発表 8 分、Q&A7 分の一人 15 分で行った。

ICSE メンバーおよび会場の来場者は Finalist 選出と同じ評価表にポイントを入力し、ICSE：来場者得点を 2：1 のウェイトで合計点を出して上位 3 プランを選出した。最高得点の平均ポイントは下表の通りであった。

Originality	Feasibility	Commitment	Social Impact	TOTAL
7.8	7.9	7.4	7.1	30.1
(out of 10)	(out of 10)	(out of 10)	(out of 10)	(out of 40)

3 件のプランから NEC 賞、国際開発アソシエイツ (IdeA) 賞を選び、残り 1 件を ICSE 賞とした。

また、昨年の受賞者でエチオピアからの留学生 Sisay Ayichew Workineh さんは、人力・家畜による農作業からトラクターなどによる機械化を進めるプランを構想しているが、この 1 年間の準備状況を発表した。ICSE メンバーが同行し、農機具メーカー訪問、大規模農場を運営する日本の農家へのヒアリング等を通じ、現状のエチオピアにとっての最適な機械化の方策を追求しているという報告であった。

#### \*ICSE 賞

##### **Junichirou Ishio 他 REZA, , ANGA, FUKAO, NIRMALA, ANDO(Japan)**

日本では Halal 食材 (イスラム法典準拠) が簡単には手に入らない。日本在住のイスラム人社会に認証を受けた Halal 食材 (特に食肉) をインターネットなどで販売することにより、日本人とイスラム社会との連携を強化する。

#### \*NEC 賞

##### **William Hong(Philippines)**

フィリピンの離島無電源地域での夜間の漁に使用するランプを、太陽電池と LED 照明を使い効率的に漁をすることができるようにするとともに、家庭内の明かりも提供する。所得の向上と生活改善が目的である。

#### \*IdeA 賞

##### **Mary Jane Alcedo (Philippines)**

フィリピンの農村で高品質なヤギを効率的に生産し、食肉・乳の新規の流通網を構築し、所得向上を図る。

3 プランへの賞状および賞金を授与した。下記はその後の発表者の集合写真である。



(主催者と発表者集合写真)



(NEC から William Hong さんへの賞状)



(国際開発アソシエイツから Mary Jane Alcedo さんへの賞状)

以上.